2004年9月14日
ITSSユーザー協会

経済産業省策定「ITスキル標準」の普及推進団体「ＩＴＳＳユーザー協会」スキル診断ツールのガイドラインを作成･公開

～「ITスキル標準」を基盤に、企業の人材戦略を支援～

NPO法人「**ITSSユーザー協会**」は、このたび、**『ITスキル標準に対応したスキル診断ツールガイドライン』**を作成し、一般向けに公開することを発表します。ITSSユーザー協会は経済産業省策定の「ITスキル標準」の普及に向けて活動しており、作成したガイドラインはITスキル標準の普及、IT業界の高度化に貢献すると期待しています。

ITスキル標準は、IT業界の技術者の職種とレベルを定義したものですが、ITスキル標準の普及にともない、業界としてそのレベルを客観的に正確に評価できる仕組みが必要となってきています。また、多くの技術者がレベルの1～3に該当すると言われていますが、そのレベルの評価にはスキル診断ツールが利用できます。

しかしながら現在、数社が提供しているスキル診断ツールは、各社がカスタマイズを行っているため、評価基準が異なり、実施結果のレベルに相違があるという問題があります。このことは、ITスキル標準を広く普及させるための阻害要因のひとつとなりかねません。

この問題を打開するため、ITSSユーザー協会の会員であるスキル診断ツールの提供企業各社とスキル診断を受診する企業で、ITスキル標準に対応したスキル診断ツールのあり方について検討し、ツールの機能や診断項目に関するガイドラインを作成しました。

同時に、ITSSユーザー協会は、今後、各社のスキル診断サービスがガイドラインをどのように適用しているかをITSSユーザー協会のWebページで公開します。ツールを利用した技術者のスキル診断を実施したい企業は、このWebページで自社の利用目的に合った診断ツールの選択に役立つ情報を得ることができるようになります。

ITスキル標準に対応したスキル診断ツールを活用することで、企業は他社と比較した自社のスキルの強み弱みを定量的に把握することができ、人材の有効活用やキャリアパス策定、効果的な人材育成などに活用することができます。また技術者は自らの強み弱みを知り、自分の適性を考慮したキャリアビジョンを描くのに役立ちます。

今回作成されたガイドラインには以下の特徴があります。

(1) 本ガイドラインは会員であるスキル診断サービスの提供企業と受診企業とが、診断ツールの信頼性や正確性を高めることを目的に共同で作成したものである。
(2) スキル診断ツールが備えるべき要件を3段階(◎:必須、★★:強く推奨、★:推奨)で表現している。
(3) ITスキル標準のコンセプトを最大限に尊重している。例えば、達成度指標とスキル領域とを別々に評価するなど。
(4) スキル診断ツールならではのアイディアを提案している。例えば、レベルは小数点以下1桁までを表す、診断データを他のデータベースに容易に取り込むことができるなど。

ガイドラインは、本日より以下のURLで一般公開します。

URL：http://www.itssug.org/docs/

ITSSユーザー協会では、今後も引き続き協会への参加企業の募集を実施し、2004年度中に200社・団体の参画を視野に、活動内容を積極的に拡充、公開していきます。

■　本件に関する報道関係お問合せ

特定非営利活動法人 ITSS ユーザー協会　事務局
TEL：03-5226-8301
e-mail：contact@itssug.org　　URL:http://www.itssug.org/

ITSSユーザー協会　スキル定義ワーキンググループ
主査　駒谷 昇一（NTTソフトウェア株式会社）
TEL：045-212-7967
e-mail：komaya@po.ntts.co.jp

■　主なスキル診断ツール提供会社

●　ザ･ネット

株式会社ザ･ネットは、ITSSユーザー協会がこのほど策定した「スキル診断ツールガイドライン」について、ITスキル標準の普及や、IT技術者およびITサービス企業（一般企業の情報システム部門を含む）の高度化に役立つものと考え、強く賛同いたします。

スキル診断の専門企業である当社は、ITスキル標準β版、V1.0、V1.1に対応したITスキル診断ツール「ITSS－DS」をいち早く開発し、日経BP社が発行する日経ITプロフェショナル誌と協力して2002年からITエンジニアの実態調査を毎年実施。この調査で蓄積した膨大かつ最新のデータをもとに、客観性の高いスキル診断サービスを提供しています。今後もITエンジニアやIT企業の方々にお役立て頂けるよう、本ガイドラインに準拠してサービス内容、品質の向上に努める所存です。

株式会社ザ･ネット　代表取締役社長　清水 康雄

●　システム･テクノロジー･アイ

株式会社システム･テクノロジー･アイでは、IT スキル標準に対応した診断サービスを専用に開発し、2003 年10月よりサービスを提供しております。当社は、このたびITSSユーザー協会が中心となって策定したスキル診断ツールのガイドラインに対応した IT スキル標準診断サービスをいち早く提供するとともに、今後も受診企業にとってよりクオリティの高いサービスを提供し続けてまいります。

株式会社 システム･テクノロジー･アイ　代表取締役社長　　松岡 秀紀

●　ネクスト･エデュケーション･シンク

弊社は、ガイドラインの主旨に賛同致します。ITSS のスキルフレームワークを活用するためには、まずは現在のスキルレベルを見極めるため、スキル診断が有効です。ガイドラインは、今後 ITSS スキル診断が、社会的に認知されるためにも必要なもので、弊社も基準として参ります。弊社の「ITSS レベルチェッカー™」の特長は、自己申告の診断でなく、客観テストであることです。ITSS に沿った職種別スキルの実力テストが出題され、診断後、受験者に、強み、弱みを即レーダーチャートで表示し、気付きと、学習への意欲を喚起させます。全体平均との比較で、客観的、定量的に比較できるため、企業では、従業員のITSSスキルレベルの把握、教育や人材育成用途、教育効果測定、採用時スキル診断用途、人材派遣業の登録時にも活用されています。また、診断後、ITSS 教育コースを、自動マッチングで学習案内いたします。

株式会社ネクスト･エデュケーション･シンク　　代表取締役社長　　斉藤　実

●　富士通ラーニングメディア

富士通ラーニングメディアは、『ガイドライン』が策定されることにより、IT技術者のスキル診断を行う企業や技術者の育成に大きく貢献するものと期待し、賛同の意を表明いたします。

当社は、1997年より業界内でも先駆けてITスキル診断分野のサービスに取り組んでおり、2000年3月より客観性を重視したテストによる診断を実施、蓄積された他社データとの比較等のサービスを特長とし、これまでに約200社4万3千人にご利用頂いております。今回のガイドラインの公表をうけ、これまで蓄積したノウハウや経験を活かし、本ガイドラインに準拠したサービスを提供いたします。より多くの企業でのご活用ならび

にIT業界全体への普及に積極的に取り組み、今後もサービスレベルの精度向上に努め、IT業界の人材育成に貢献していく所存でございます。

株式会社富士通ラーニングメディア　取締役 研修事業本部長　土井 雄一郎

■　ITSS ユーザー協会について

「ITSSユーザー協会」は、東海大学教授 唐津 一を会長とし、NECソフト株式会社、株式会社シーエーシー、シスコシステムズ株式会社、日本オラクル株式会社、株式会社日立システムアンドサービス、富士通株式会社、マイクロソフト株式会社、松下電器産業株式会社を中心に、総勢128会員 (2004年9月7日現在) で「ITスキル標準」（略してITSS）普及のための活動を積極的に行っています。

「ITSS」は、各種IT関連サービスの提供に必要とされる能力を明確化、体系化した指標であり、産学におけるITサービス・プロフェッショナル育成のための評価基準として、経済産業省が策定したものです。これに対し「ITSSユーザー協会」は、「ITSS」の活用、普及に関心のある企業・個人にとって、広範囲に最新情報や問題意識を共有し、ITサービス・プロフェッショナル育成の具体策を構築する場を作る目的で結成されたNPO（特定非営利活動）法人です。